



環境教育や環境保全活動等を通じた人づくりに対する 環境省主催の表彰事例

第 4 回環境教育等推進専門家会議

2023年 9月21日

環境省大臣官房総合政策課環境教育推進室



環境教育や環境保全活動等を通じた人づくりに対する環境省主催の表彰事例①



環境 人づくり企業大賞

- ・ 環境教育等促進法第22条の2第2項に基づく表彰として、環境に配慮した企業等活動をリードする人材を育成して輩出し、その活動をバックアップする企業（営利企業を含む広義の事業者）を表彰。
- ・ 平成26年度から令和2年度まで実施。令和3年度以降は「環境省グッドライフアワード」に統合し、同アワードの一部門（環境ひとづくり賞）として実施。

【平成30年度】環境大臣賞

・大企業区分

株式会社ジャパンセミコンダクター (製造業、岩手県)	(評価した取組の内容) <ul style="list-style-type: none">・SDGs教育や、「全員で取り組む『5Rリーダー宣言』」などの月間行事による活動等、全従業員を巻き込んだ取組を実施している。・地元企業や行政、大学、近隣住民とのコミュニケーションを意識した取組を行っており、自社内だけでなく、外部と連携・協働しながらの取組を進めている。・社員の環境意識の育成と社会とのつながりと貢献を意識した取組は、SDGsを意識しつついずれも楽しみながら参加できる企画を数多く実施し、主体性を育んでいる。・これまで実施していた活動を常に振り返り、より良い活動にするべく改善を進めるなどPDCAを実践し、社員のモチベーションや関心を高める方向に導いている。
--------------------------------------	--

・中小企業区分

山陽製紙株式会社 (製造業、大阪府)	(評価した取組の内容) <ul style="list-style-type: none">・「紙創りを通してお客様と喜びを共有し、環境に配慮した循環型社会に貢献」を経営理念とし、人材の育成を図っている。社員への「人材育成の仕組み」があり、環境教育は人材育成の中で明確に位置付けられている。企業戦略と環境教育が統合している。・環境教育として河川清掃の地域活動、委員会活動、e c o検定・CSR検定受験、社員の経営理念を深める理念祭、社内エコポイント、工場見学受入れなど幅広い活動を実施している。・委員会活動は、部署を超えて全社的な視点で活動。社員の経営的思考の育成、社内コミュニケーションの向上に役立っている。・高度排水処理設備の導入に合わせて、前記の委員会を利用し社員全員の理解を得ている。
------------------------------	---

環境教育や環境保全活動等を通じた人づくりに対する環境省主催の表彰事例②



【令和元年度】環境大臣賞

・最優秀賞：大企業区分

<p>トヨタ自動車株式会社 (製造業、愛知県)</p>	<p>(評価した取組の内容)</p> <ul style="list-style-type: none">・「知る」「学ぶ」「動く」の3つのサイクルにより、社員の意識や理解度に応じて対応できる社員教育を年間を通じて実施している。特に、「動く」では、環境に関する提案を募集する「創意くふう環境特別募集」を実施しており、社員が自ら行動することを促進している。・環境教育の効果として、堤工場では、環境のモデル工場として地域本来の生態系保全への貢献を目的に「びおとーぶ堤」を開設、貞宝工場では、地元有識者や地域の高校等と協働した自然共生活動を実施しているなど、各工場で、「自然と共生する工場」を実現している。「指標種調査リーダー」を認定する仕組みを構築し、工場の社員自らが指標種調査を行っている。・これらの取組は、トヨタ環境チャレンジ2050という自社の経営と関連しており、特に、「人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ」の実現に向けた取組を通じて、SDGsの達成にも貢献している。
--	--

・最優秀賞：中小企業区分

<p>日本リソースシステム株式会社 (サービス業（他に分類されないもの）、東京都)</p>	<p>(評価した取組の内容)</p> <ul style="list-style-type: none">・SDGs教育として、全社員を対象に希望するセミナーを無料で受講できるようにしているほか、新入社員向け基礎講座を実施。また、環境を意識させる取組として、暖房の使用を減らし省エネにつながる体操を実施している。・環境教育の効果として、社員が趣味で行っていたことを通じて、モンゴル向けのビジネスとして「お針子事業」を開始し、約20万点の着物、帯を捨てることなく、活用している。また、日本やモンゴルの学校でセミナーを開催し、着物等が大量廃棄される問題解決のコンセプトに賛同した文化服装学院の生徒らが仕立てた「お針子デール」を披露するなど着物等の廃棄減少につなげる取組を実施。・こうした取組により、着物の処理時に排出される温室効果ガス削減など、SDGsの達成に貢献している。
--	--

・地域協働部門賞：中小企業区分

<p>郡山開成学園 (教育、学習支援業、福島県)</p>	<p>(評価した取組の内容)</p> <ul style="list-style-type: none">・学生、教職員を対象に、年間を通じて環境教育を実施。環境委員会を中心に、エコ検定のサポート等も行っている。・産学官との連携強化、地域活性化、施設の一般開放を推進する「地域連携推進室」を設置し、市町村やJA、福島民報社と包括連携協定を締結している。子育て支援などの交流や、全村避難となった葛尾村への人材交流、地元特産品の研究開発支援し、JAと風評被害に苦しむ農業を盛り上げる取組などを実施している。・環境方針に地域貢献を掲げ、自治体とも連携して、地球温暖化防止や省エネ等に貢献している。
---	--

・社内協働部門賞：中小企業区分

<p>株式会社ラックス (建設業、広島県)</p>	<p>(評価した取組の内容)</p> <ul style="list-style-type: none">・社員教育として、ISO規格に準じた全社員参加型の会議を実施し、月1回の全社員参加型研修会、社外研修への参加を奨励（費用負担）している。・営業担当がSDGsビジネススクールに参加したことをきっかけに、全社員参加のSDGsチームを社長指揮の下で実施している。社会的弱者向けに低価格賃貸住宅の現状回復工事による住環境整備を行うなど、SDGsの視座を持った取組を実施。社内プロジェクトやSDGsに関する申請等、部門や組織にとらわれずプロジェクトチームをつくり、協議されている。・こうした取組は建築改修を行う企業として、本業と関連し、「いいものをつくって、きちんと手入れをし、長く使う」社会への移行に貢献している。
--------------------------------------	---

環境教育や環境保全活動等を通じた人づくりに対する環境省主催の表彰事例③



【令和2年度】環境大臣賞

・最優秀賞：大企業区分

リンナイ株式会社 (製造業、愛知県)	(評価した取組の内容) <ul style="list-style-type: none">・環境への配慮が、企業戦略にしっかりと位置付けられ、「環境保全」と「利益創出」の同時実現を図る環境行動計画「7戦略」を策定し、全社員・全行程に徹底している。・梱包材、物流、製造工程の見直しでエネルギー使用量の低減、ハイブリッド給湯暖房システムのようなエコ商品の開発と販売、エコ普及トレーニングの実施等を行った結果、環境配慮商品の売上拡大、CO2排出削減、廃棄物低減とコスト削減の同時達成、の成果を上げている。・自社のみではなく取引先や物流業者といったサプライチェーンを対象を広げて環境配慮の取組を支援し改善している。・環境先進企業視察会、モチベーションを上げる環境優秀社員の見える化などの仕組みがよく機能している。
------------------------------	---

・最優秀賞：中小企業区分

白鷺電気工業株式会社 (建設業、熊本県)	(評価した取組の内容) <ul style="list-style-type: none">・エコアクション2.1をベースにしつつ専門的な外部研修と全社員参加型研修を効果的に組み合わせ、社全体でのSDGs実現への意識の向上と実現に向けた実践活動を考え実施する社風が育成されている。・空調等の運用改善による環境負荷の低減が進んだだけではなく、環境課題の解決を目指す新規事業への挑戦へと繋がっている。・EVバスの実証実験やZEB導入によるネット・ゼロ・エネルギー・ビルの普及促進に取り組んでいたり社会的に評価されている。
--------------------------------	---

・地域協働部門賞：中小企業区分

トヨタ紡織滋賀株式会社 (製造業、滋賀県)	(評価した取組の内容) <ul style="list-style-type: none">・環境道場の開催に代表されるように、環境活動に対する経営者の強いリーダーシップが発揮され、全社員に届いている。・道場開催により、全社員が、毎年、CO2排出抑制、環境負荷物質の流出防止を徹底するための体験訓練等を受けることを通して、自律して考え、実行に移すことを強く奨励し、成果をあげており、優秀な環境活動を行う社員の顔が見える仕組みも構築されている。・環境ロードマップ等の策定により、会社経営と連動した環境活動を推進し、その結果、年間廃棄物23t削減、水使用年間13t削減、生産工程排水75%低減の環境負荷低減が達成され、コスト削減と会社イメージアップに繋がった。
---------------------------------	---

・社内協働部門賞：中小企業区分

株式会社坂口製作所 (製造業、大阪府)	(評価した取組の内容) <ul style="list-style-type: none">・リサイクル性の高いアルミ・ステンレスの加工を本業で行っており、その経費削減及び品質向上に関連づいた形で環境活動を行っている。・全社員が行うQCサークル活動及び改善提案活動で、社員の自発的な活動を喚起する仕組みがよく機能し、生産性向上等、経営に直結した成果に繋がっている。・工場見学やしごと探偵団など子供たちへの取り組みなど地域交流活動も行われている。
-------------------------------	---

環境教育や環境保全活動等を通じた人づくりに対する環境省主催の表彰事例④



環境省 グッドライフアワード（実行委員会特別賞のうちの「環境ひとづくり賞」）

- ・ 環境に優しい社会の実現を目指し、日本各地で実践されている「環境と社会により暮らし」に関わる活動や取組を募集して紹介、表彰し、活動や社会を活性化するための情報交換などを支援していくプロジェクト。
- ・ 平成25年度から実施し、実行委員会特別賞のうち「環境ひとづくり賞」は、サステナブル経営を通じた、人材育成や人的資本の充実への取組を表彰する部門として、令和3年度（第9回）から実施。

【第9回（令和3年度）】環境ひとづくり賞

<p>株式会社コクヨ工業滋賀</p> <p>地域の力でびわ湖のヨシ原を楽園に還そう ～リエデン プロジェクト～</p>	<p>（取組の紹介）</p> <p>2007年、琵琶湖の環境問題に貢献するため、衰退するヨシ（葦）原の保全活動とヨシの活用を目的とする事業をスタート。2009年には、活動組織「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」を設立し、地域社会と連携した冬のヨシ刈り、夏の外来魚駆除釣りを長年に渡り継続しています。また、ヨシの活用（ヨシ文具：リエデンシリーズ）は、衰退する伝統産業に変わる新しいヨシ産業の先駆けとなっており、ヨシを通じた地域貢献を実践しています。「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」は、賛同の輪が広がり現在132社が賛同する規模となり、近年では、産学官民から1開催200～300名が参加する県内最大級のヨシ刈り活動に成長しています。一方ヨシ文具は、本業の事業の中で、使われなくなったヨシを自らの商品の原料として積極的に活用を進めています。加えて、売上の一部を寄附金として地域へ還元する取り組みや学校等を中心にヨシ授業を行い“ヨシの大切さ”を社会に伝えています。</p>
<p>山陽学園中学校・高等学校 地歴部</p> <p>新しい啓発活動への挑戦 瀬戸内海の海洋ごみ問題の解決へ向けての「自分事」化プロジェクト</p>	<p>（取組の紹介）</p> <p>私たちは瀬戸内海の海洋ごみ問題の解決に向け、海底ごみと島嶼部の海岸漂着ごみの回収活動と、ごみの発生抑制のための啓発活動に取り組んでいる。回収量を大きく上回る発生量を抑制するための啓発活動は重要である。しかし、実施する啓発イベントの参加者意識は大変高く、啓発効果の広がり疑問を感じた。解決に向けて、イベントに参加できない人、意識の低い人、他人事と考える人の意識を変えるべく、日常生活や地域（足元）から問題を「自分事」として意識と行動の変化を促す実践である。問題を「自分事」として捉えてもらう実践の1つ目は、日常生活から促すことである。不特定多数の人が集う商業施設にて、買い物客に対して大量に購入するプラスチックやビニール包装について伝え、商品からごみへの意識を醸造した。2つ目は、居住地域の足元から促すことである。通常の啓発イベントを開催する際に、その地域の用水路のゴミ調査を実施し、結果を盛り込むことで、足元の用水路から海への繋がりを意識してもらった。</p>
<p>宮城県農業高等学校 農業経営者クラブ</p> <p>森林が作る宇宙コスモスのオレンジロード</p>	<p>（取組の紹介）</p> <p>東北・みやぎ復興マラソンは東日本大震災の被災地を巡るコースですが、津波の被害で作物が育たず、耕すことも難しい場所でした。そこで、スギ樹皮を土に混ぜて土作りを行い、オレンジ色のコスモスを植えることでオレンジロード作りを5年間続けています。活動にはTOYOTA、仙台放送、市役所、ボランティアが協力し、両側2kmの花の道を作り毎年伸び続けています。いずれは42.195kmのコースを花で彩ることを目標に活動を続けています。復興に興味を持って頂いた宇宙飛行士の山崎直子さんから連絡を頂き、コスモスの種を宇宙に打ち上げ無事に戻ってきました。宇宙コスモスとして復興のシンボルとして植えています。宮城には2774haのスギがありますが、間伐して製材すると産業廃棄物として大量の樹皮がでます。これを、農業に利用できないかと被災地の花壇に混和して、コスモスの花が満開にすることができました。ランナーが満開のオレンジロードの中を走ることができます。</p>

環境教育や環境保全活動等を通じた人づくりに対する環境省主催の表彰事例⑤



【第10回（令和4年度）】環境ひとづくり賞

<p>命をつなぐPROJECT</p> <p>命をつなぐPROJECT</p>	<p>（取組の要旨） 主に愛知県知多半島の企業緑地群を舞台とし、生物多様性の向上や近隣住民の意識啓発に取り組むことで、周辺の生態系ネットワークを形成し、自然と共生できる豊かな社会づくりを目的とした生物多様性向上・啓発プロジェクト。多数の企業や学生、NPO、有識者、行政などの多様な主体が連携し、緑地の整備や啓発イベントの開催、フリーペーパーやYouTubeによる情報発信など、様々な活動に取り組んでいる。</p> <p>（実績の要旨） 活動も12年目を迎え、主なフィールドである企業緑地の生物多様性緑地化が進行している。活動当初「次世代の担い手」として期待された学生組織は、学生の入会→卒業のサイクルを繰り返しながら会としての知見を蓄積し、当活動および近隣生態系の「現代の担い手」として機能している。企業側の意識も向上し、緑地整備や企業間連携、イベント協力にも積極的な姿勢が生まれ、大きな予算をかけて大規模緑地を造成する企業も現れている。</p>
<p>JWCO 一般社団法人 日本福祉協議機構</p> <p>障がい者就労支援×自然派グラノーラ専門バルクショップ【GRANY】（グラノーラ）</p>	<p>（取組の要旨） ノーマライゼーション社会の実現。社会課題を福祉の力で解決する『次世代型就労支援』の一つのプロジェクト「障がい者と共に、フードロス&環境課題に取り組む」就労継続支援B型事業所【GRANY】障がいの特性や能力を還元し、共に環境課題解決に向け地域社会と共生する環境配慮型ショップとして運営中。ダイバーシティー & インクルージョンを目指して、障がい者雇用や就労支援のパラダイムシフト起こすため活動中。</p> <p>（実績の要旨） グラノーラや、廃棄予定農産物をアップサイクルした商品60種以上をバルク（量り売り）販売し、フードロスの削減や環境配慮行動、エシカル消費の促進や発信を行う。地元愛知県東郷町と連携し、店舗運営の他、耕作放棄地を再生し自社農園を準備中。行政と連携し、特産品の開発も担う。地域住民との信頼関係を構築しながら、共に働く障がい者への理解促進にも貢献。障がい者への同情ではなく、商品やお店のファンを増やし、工賃の向上と最低賃金保障を継続。</p>
<p>三島せせらぎミニミニ発電コンテスト実行委員会</p> <p>子ども達がせせらぎを利用したミニ水力発電装置を作り、同時に自然環境の保全と自然エネルギーの大切さを学ぶ。</p>	<p>（取組の要旨） 三島市を中心とした小中学生を対象に夏休みの自由研究の一環として、三島市の富士山湧水を利用し、ハブダイナモを使い水力発電装置を思い思いに製作し、発電効率、デザイン性、エコへの取り組み（家庭での不用品を利用）、等いくつかの項目で審査し、順位を競うコンテストです。</p> <p>（実績の要旨） 令和4年8月で7回目の開催となりました。ミニ水力発電装置の工作を通じて、親子や友達同士で発電のメカニズム、自然エネルギーの利用法を学び、将来を担う子供たちの科学への関心や創造性を育む事ができ、同時に自然環境の保全に対する意識の高揚、地域の絆づくり、親子の触れ合いを通じ、地域の活性化に貢献する事が出来ました。</p>

（出典）環境省グッドライフアワードHP https://www.env.go.jp/policy/kihon_keikaku/goodlifeaward/index.html